

男女共同参画シリーズ その2

表面分析の技術士として

Professional Engineer of Surface Analysis

1 はじめに

男女共同参画推進委員会より執筆のお話をいただいた時、社会人となって10年にも満たず、しかも技術士となってたった2年の若輩者に何が書けるだろうかと思いました。技術士としては女性がまだ少ない金属部門、そして北陸という地域での女性の働き方について、皆さまに知っていただければと思い、執筆いたします。

2 私のキャリアパス

私は大学、大学院は理学部物理学科という比較的特殊な分野で、極低温における電子の挙動（超伝導など）を研究していました。その後、出身地である富山県に戻り、ファスナーメーカーであるYKK（株）に就職しました。最初に配属された新規事業開発の研究部署では日々、社会人の一般常識から仕事や技術者とはどのようなものかまで、先輩方に一から教えていただきました。職場では仕事や評価において男性だから、女性だからという理由による差がなかっただけでなく、すでに女性の先輩方が活躍されていたので、男女共同参画という観点からは職場環境にはとても恵まれていたと思います。

入社3年目に会社全体の組織改編により、開発

から分析へ異動になりました。今でこそ分析は開発や製造には必須の業務であり、「わからない事象を可視化、数値化する」ことにより、現場のトラブル対応、製造ライン安定化、開発スピードアップにつながり、間接的ではありますがお客様に貢献できる仕事として誇りを持っています。しかしながら異動当時は「分析＝開発や製造のツール」という意識しか持てず、とても悩んだ時期がありました。

その時に技術士という資格を知り、この先まだ長い社会人生活において、新しいことに挑戦してみようという気持ちで資格取得にチャレンジをしました。技術士資格へのチャレンジとほぼ同時期に、分析もまだまだ未確立の分野であり、ルーチンワークではなく新規技術の発展やさらなる分析精度向上などが図られていることを知りました。

現在は、特に製品のごく表面、数nmのエリアナノメートルを分析する表面分析という分野を主軸として活動しております。

3 現在の私と表面分析研究会

先述の通り、現在の業務は、電子顕微鏡等様々な装置を使った分析によるYKKグループ全体の金属製品における開発品の評価および工程改善とファスニング事業との共同開発です。日常業務と同時に一般社団法人 表面分析研究会（SASJ）でも活動しています。

SASJは大学および研究機関の研究者や企業から技術者が多く集まり、実用的な表面分析技術の議論から表面分析技術の標準化（ISO）まで様々な活動をしています。SASJでは大変高名な先生方や各企業で活躍しておられる方に直接教えていただけるだけでなく、日々の業務における困ったことなども相談できます。このため、モチベーションを高められることに加え、日々の業務にもすぐに役立てられるのでとても有意義と感じてい



写真1 入社時、職場の登山で先輩方と

ます。

昨年度より研究会の講演委員に任命され、年に2回の定期研究会および年に1度の実用表面分析講演会（3年に1度は国際会議）の運営に参画しています。さらに、20～30代を主としたSASJ若手会を、数名の委員と一緒に進めています。若手会の目的は互学互修で、教えてもらうだけでなく自らも学習して教える立場になることです。研究会では高名な有識者が多いため、若手は知識不足もありどうしても受け身で発言も控えてしまいます。一方、若手会では萎縮する必要はないので毎回、活発な意見交換や議論が行われています。

私も技術力や知識としては決して高いわけではありませんが、教えてもらうだけでなく最近では教えることもできるような知識と技術力が身についてきました。SASJにおいて表面分析技術者として大きく成長させていただいていますが、これからさらに広い分野で学ぶことで、技術士としても知見を広げていきたいと思っています。



写真2 SASJ若手会の参加者と

4 ワーク・ライフ・バランス

私の現在の働き方はワーク・ライフ・バランスが良いとはいえず、ワーク側に主軸を置いています。6年前に結婚しておりパートナーもワーク側に主軸がありますので、お互いに家事を分担しあってなんとかやっている状況です。パートナーの理解があるからこそ、私もワーク側に主軸を置いているともいえます。しかし、今後はライフ側の状況はどんどん変わっていく可能性が高いかと思っています。その時どうなるのか、本音をいえば不安です。これは第一線で働いている女性が誰しも

考えることだと思います。もともと北陸は共働きが当たり前の風土があり、私の周囲でも、パートナーや親と協力して子育てや家事をして、仕事に邁進している方をたくさん見えています。また、子育てを理由に仕事を辞める女性技術者もほとんど知りません。だからなんとかなるだろうとも思っていますが、やはりパートナーの協力や理解はとても重要だと思います。女性の活躍が叫ばれていますが、女性の努力だけでは困難です。一方で私はすでに男女平等という考え方が広まっている環境で学び、働いていますので、「男性の理解が必要」という言葉には違和感を覚えます。男女関係なく、一緒にワーク・ライフ・バランスを取っていく必要があると思います。

5 終わりに

昨年、私のパートナーも技術士となり、切磋琢磨できる相手がさらに身近に増えました。弊社では技術士資格の取得を推進しており技術士の数は増えていますが、残念ながら女性の技術士は私以外にはおりません。もっと女性技術士が増えて、各地域、特に地方において女性技術者同士で専門分野に関わらず議論や相談ができるようになれば、さらに女性技術士、技術者が活躍し、増えていくと思います。

私は表面分析という分野での技術士です。どのような分野にも技術士がいるということを知っていただくことで、技術士にチャレンジされる方が増えれば嬉しく思います。

男女共同参画推進委員会から

平成28年度末で金属部門に占める女性の割合は0.7%です。勝見氏のご活躍で金属部門の女性が増えること、期待しています。

勝見 百合 (かつみ ゆり)
技術士（金属部門）

YKK（株）工機技術本部
分析・解析センター 分析室
一般社団法人 表面分析研究会 講演委員
e-mail : y-katsumi@ykk.co.jp

